

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月4日

上場会社名 大和ハウス工業株式会社  
 コード番号 1925 URL <http://www.daiwahouse.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村上 健治  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部IR室長 (氏名) 土田 耕一  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

上場取引所 東大

TEL 06-6342-1400

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	821,690	—	35,107	—	35,263	—	17,912	—
20年3月期第2四半期	825,880	6.2	40,720	8.2	40,882	4.6	23,639	17.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	30.92	—
20年3月期第2四半期	40.42	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第2四半期	1,859,944	637,791	34.1	1,095.16
20年3月期	1,791,052	649,440	35.3	1,092.04

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 634,329百万円 20年3月期 632,571百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	0.00	—	24.00	24.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	24.00	24.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,665,000	△2.6	70,000	△21.5	60,000	△2.1	26,500	102.6	45.75

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
 新規 一社(社名) ) 除外 一社(社名) )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 有  
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務情報等】 4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 599,921,851株 20年3月期 599,921,851株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 20,712,173株 20年3月期 20,665,458株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 579,237,391株 20年3月期第2四半期 584,890,587株

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他の特記事項

1. 上記の業績予想につきましては、平成20年5月13日に公表いたしました内容から変更しております。詳細につきましては、平成20年11月4日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としています。今後実際の業績は、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。詳細は、4ページ【定性的情報・財務情報等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

3. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、原油高・資源高や米国金融不安による世界的な景気減速の波を受け、企業収益の減少や物価上昇に伴う個人消費の足踏みが顕著になるなど、景気は厳しい状況で推移いたしました。

当業界におきましても、新設住宅着工戸数は、建築基準法改正による影響が薄れたものの、景気の先行き不安や個人所得の伸び悩みによる買い控えが広がりを見せるなど、依然として低い水準となりました。

このような経済状況の中で、当社グループは、本年4月からスタートした「大和ハウスグループ第二次中期経営計画－Challenge 2010」の基本戦略に則り、「利益体質の強化」と「将来に向けた収益源の育成」をテーマに各事業の業容拡大に取り組んでまいりました。

特に戸建住宅事業においては、株式会社ベネッセコーポレーションとのコラボレーションによる子育て層向けの新しい住宅プラン「HAPPY HUG（ハッピーハグ）モデル」の提案や、企画提案型商品の手軽さと設計の自由度を両立させた新商品「xevoC（ジーヴォ・シー）」を発売するなど、ソフト提案の強化と「xevo（ジーヴォ）」シリーズのラインアップ拡大を図ってまいりました。

また、同中期経営計画の基本戦略である「総合的な不動産事業の強化」につきましても、高層賃貸住宅や商業施設等の開発を進めるなど、当社グループの総合力を活かした収益源の確保に取り組んでまいりました。

さらに、企業の「環境性」「社会性」の観点から、再生紙より一歩進んだ「森林育成紙TM」の導入や、カンボジア王国の水不足解消を目的とした「カンボジア井戸プロジェクト」への賛同など、地球温暖化防止やボランティア活動の支援にも取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は8,216億9千万円となりました。利益につきましては、資材価格の高騰による原価率の悪化や販売費及び一般管理費の増加により、経常利益は352億6千3百万円、四半期純利益は179億1千2百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

#### <住宅事業>

戸建住宅部門では、戸建住宅商品「xevo（ジーヴォ）」シリーズにおいて、子育て層向けの新しい住宅プラン「HAPPY HUG（ハッピーハグ）モデル」を発売し、全国一斉キャンペーンを開催するなど、ソフト提案の強化に積極的に取り組んでまいりました。新商品としましては、「xevoC（ジーヴォ・シー）」を発売し、商品ラインアップを拡大いたしました。この商品では「家族みんなが建築家」をコンセプトに、建物シルエット（スケルトン）を限定することで経済設計を実現しつつも、内部空間（インフィル）の自由性を持たせることで、ご家族で楽しみながら設計していただける商品として展開してまいりました。また、お客さまがWeb上で家づくりのシミュレーションができるシステムの導入や、設計工程において、自社開発した情報加工自動化システムの運用を開始することにより、部材の配置やチェック業務などの工程を電算処理するなど業務の効率化を図ってまいりました。

賃貸住宅部門では、市街地における営業活動を一層強化し、より生活利便性の良い好立地において、3階建賃貸住宅商品の販売拡大に努めるとともに、中高層賃貸マンションとマンスリー事業を一体化した物件や、低層でのマンスリー事業を推進してまいりました。また、都市部での大型物件開発など、暮らしの多様化に対応した事業展開に努めてまいりました。

マンション部門では、マンション市況が厳しさを増すなかで、インターネット媒体を主力とした全国一斉来場キャンペーンなど、営業力の強化を図るとともに、購入後の「安全・安心」への取り組みや、「資産価値」を維持するための体制を訴求してまいりました。

住宅リフォーム部門では、建物価値や生活機能の向上など、より快適に暮らしていただくためのサービスの提供に努めてまいりました。

以上の結果、当事業の売上高は4,860億9千6百万円、営業利益は218億6千5百万円となりました。

#### <商業建築事業>

商業施設部門では、豊富な土地情報とテナント企業の出店支援ノウハウを活かし、ロードサイド店舗を中心とした企画提案型営業を推進するとともに、大型複合商業施設の開発に注力し、その運営管理とサポート体制の構築を図ってまいりました。

物流・医療介護・法人施設部門では、大規模な物流センターや生産施設、食品物流施設の建築に取り組むとともに、物流企業における施設の設計・施工から品質管理マネジメント・メンテナンスなどに関する一切を引き受ける「物流不動産ソリューション」を展開してまいりました。医療介護施設では、医療法人を中心に住宅型有料老人ホーム・高齢者専用賃貸住宅等の高齢者住宅に関する提案を積極的に展開してまいりました。また、法人施設では、全国展開する法人企業のショールームや事務所等の建築に取り組むなど営業拠点の展開をサポートしてまいりました。

以上の結果、当事業の売上高は2,416億3千2百万円、営業利益は241億2千8百万円となりました。

#### <リゾート・スポーツ施設事業>

リゾート部門では、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震による影響が一部ホテルにありましたが、平成19年3月に発生した能登半島地震で大きな被害を受けた能登ロイヤルホテルが再スタートし、また、夏休みシーズンにはファミリー層を中心に多くのお客さまにご利用いただくことができました。その中で、ご利用いただいたお客さまに安心してご滞在、ご満足いただくために、「安心・安全、おもてなし」を第一に掲げたホテル経営を行ってまいりました。

スポーツ施設部門では、既存店舗の「NASサンマルシェ」（愛知県）の建て替えや「NAS新潟」（新潟県）の新規出店等を行い、新たな顧客獲得に努めるとともに、地域活性化への貢献も図ってきました。

以上の結果、当事業の売上高は311億6千万円となりましたが、物価の上昇に伴う消費マインドの低下や施設運営経費の増加の影響などにより、営業損失が4億8百万円となりました。

#### <ホームセンター事業>

ホームセンター部門では、前連結会計年度において事業を譲り受けた5店舗の販売体制を整えた上、新たに「ロイヤルホームセンター岸和田」（大阪府）、「ロイヤルホームセンター河内長野」（大阪府）、「ロイヤルホームセンター加古川」（兵庫県）、「ロイヤルホームセンター守山」（滋賀県）の改装を行うなど既存店の活性化を進め、経営基盤の強化を図ってきました。

以上の結果、当事業の売上高は、332億6千7百万円となり、営業利益は6億6千5百万円となりました。

#### <その他事業>

建築部材の製造販売事業部門では、住宅メーカーや地域ホームビルダーに向けた建材商品の充実を図り、特に集合住宅に向けた収納商品販売の強化に努めるとともに、大型商業施設やホテル等の内装工事および造作家具の企画提案による販売の拡大を図りました。

物流事業部門では、「アセット型3PL」事業の拡大に向けて、「大阪港ロジスティクスセンターⅡ」（大阪府）に新規顧客向けの物流センターを建設したのに加えて、「中部物流センター第二期」（愛知県）と「太田物流センター第三期」（群馬県）にそれぞれ既存顧客向けの専用物流センターを建設し、事業の拡大を図りました。

都市型ホテル事業部門では、新たに「ダイワロイネットホテル名古屋駅前」（愛知県）、「ダイワロイネットホテル新横浜」（神奈川県）、「ダイワロイネットホテル大分」（大分県）を開業したことにより、13か所のダイワロイネットホテルに「大阪第一ホテル」（大阪府）、「ロイトン札幌」（北海道）を加えた全国15か所で展開してまいりました。

以上の結果、当事業の売上高は725億4千9百万円となり、営業利益は10億8千9百万円となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は1兆8,599億4千4百万円となり、前連結会計年度末の1兆7,910億5千2百万円と比べ688億9千1百万円の増加となりました。その主な要因は、高層賃貸住宅や商業施設等の有形固定資産の取得を行ったこと、及び不動産開発事業等への投資を行ったことにより固定資産が増加したためです。

また、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は1兆2,221億5千2百万円となり、前連結会計年度末の1兆1,416億1千1百万円と比べ805億4千万円の増加となりました。その主な要因は、借入金やコマーシャル・ペーパーの発行による資金調達を行ったことや未成工事受入金が増加したことによるものです。

純資産合計については、179億1千2百万円の四半期純利益を計上したものの、前連結会計年度に係る株主配当金を支払ったことなどにより、前連結会計年度末と比べ116億4千9百万円減少し、6,377億9千1百万円となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

昨今の業績の推移や市場環境の動向等を勘案し、平成20年5月13日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正いたしました。なお、当該予想数値の修正に関する事項は、本日（平成20年11月4日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

#### ・会計処理基準に関する事項の変更

#### 1. 「四半期財務諸表に関する会計基準」の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法の変更

たな卸資産については、従来、主として個別法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）が適用されたことに伴い、主として個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。なお、この変更による損益への影響は軽微です。

#### 3. 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。なお、この変更による損益への影響は軽微です。

#### 4. 「リース取引に関する会計基準」の適用

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号）を第1四半期連結会計期間から早期適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。ただし、リース取引開始日がリース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計基準を適用しております。なお、この変更による損益への影響は軽微です。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	106,254	100,354
受取手形・完成工事未収入金等	51,467	63,337
有価証券	20	20
未成工事支出金	67,512	72,602
商品及び製品	11,317	12,444
仕掛品	11,481	10,497
材料貯蔵品	4,689	4,325
販売用不動産	314,100	325,891
仕掛販売用不動産	57,114	66,009
造成用土地	3,842	3,841
その他	110,199	103,450
貸倒引当金	△1,040	△897
流動資産合計	736,959	761,877
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	493,887	460,762
減価償却累計額	△229,124	△223,306
建物・構築物(純額)	264,763	237,455
土地	367,524	341,407
その他	170,438	144,309
減価償却累計額	△81,285	△80,356
その他(純額)	89,153	63,952
有形固定資産計	721,440	642,816
無形固定資産	12,668	12,410
投資その他の資産		
投資有価証券	101,301	98,283
敷金及び保証金	167,900	164,956
その他	128,762	119,490
貸倒引当金	△9,088	△8,781
投資その他の資産計	388,875	373,948
固定資産合計	1,122,984	1,029,175
資産合計	1,859,944	1,791,052

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	167,321	189,860
短期借入金	17,958	11,918
1年内返済予定の長期借入金	2,785	1,595
コマーシャル・ペーパー	105,000	20,000
未払法人税等	13,272	23,163
未成工事受入金	65,473	58,628
賞与引当金	21,449	21,167
完成工事補償引当金	7,029	6,572
その他	145,978	151,418
流動負債合計	546,268	484,323
固定負債		
長期借入金	205,498	193,376
長期預り敷金保証金	212,445	204,287
退職給付引当金	125,377	124,169
その他	132,562	135,453
固定負債合計	675,883	657,287
負債合計	1,222,152	1,141,611
純資産の部		
株主資本		
資本金	110,120	110,120
資本剰余金	226,824	226,824
利益剰余金	384,427	381,479
自己株式	△19,561	△19,534
株主資本合計	701,810	698,891
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,331	13,432
土地再評価差額金	△78,106	△79,195
為替換算調整勘定	△707	△556
評価・換算差額等合計	△67,481	△66,320
少数株主持分	3,462	16,869
純資産合計	637,791	649,440
負債純資産合計	1,859,944	1,791,052

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成20年4月1日  
至平成20年9月30日)

売上高	821,690
売上原価	654,189
売上総利益	167,500
販売費及び一般管理費	132,393
営業利益	35,107
営業外収益	
受取利息	728
受取配当金	820
持分法による投資利益	482
デリバティブ決済益	576
デリバティブ評価益	27
雑収入	2,615
営業外収益合計	5,250
営業外費用	
支払利息	2,312
貸倒引当金繰入額	60
デリバティブ決済損	326
デリバティブ評価損	423
雑支出	1,972
営業外費用合計	5,094
経常利益	35,263
特別利益	
固定資産売却益	531
その他	1
特別利益合計	533
特別損失	
固定資産売却損	244
固定資産除却損	986
減損損失	17
投資有価証券評価損	1,441
貸倒引当金繰入額	316
その他	311
特別損失合計	3,316
税金等調整前四半期純利益	32,480
法人税、住民税及び事業税	13,248
法人税等調整額	1,726
少数株主損失(△)	△406
四半期純利益	17,912

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	住宅事業 (百万円)	商業建築 事業 (百万円)	リゾート・ スポーツ 施設事業 (百万円)	ホーム センター 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	485,437	232,946	31,133	32,308	39,864	821,690	—	821,690
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	658	8,686	27	959	32,685	43,016	(43,016)	—
計	486,096	241,632	31,160	33,267	72,549	864,706	(43,016)	821,690
営業費用	464,231	217,504	31,568	32,601	71,459	817,366	(30,783)	786,582
営業利益又は 営業損失(△)	21,865	24,128	△408	665	1,089	47,340	(12,232)	35,107

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分の方法は、現に採用している売上集計区分をベースに住宅事業、商業建築事業、リゾート・スポーツ施設事業、ホームセンター事業及びその他事業にセグメンテーションしています。

2. 各事業区分に属する主要内容

- ① 住宅事業 戸建住宅、集合住宅（寮、社宅、アパート等）、マンション等の建築請負、分譲及び賃貸、宅地の分譲、不動産の仲介斡旋、アパートの賃貸、管理、マンションの管理
- ② 商業建築事業 各種流通センター、店舗、事務所、工場等の建築請負及び賃貸、管理、事業用地の分譲
- ③ リゾート・スポーツ施設事業 リゾートホテル、ゴルフ場、スポーツ施設事業
- ④ ホームセンター事業 ホームセンター事業
- ⑤ その他事業 建築部材製造・販売事業、物流事業、都市型ホテル事業、その他

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、12,433百万円であり、その主なものは企業イメージ広告に要した費用及び当社の総務部門等管理部門に係る費用です。

〔所在地別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、記載を省略しました。

〔海外売上高〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

海外売上高が、連結売上高の10%未満であるため記載を省略しました。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。



「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)		
	金額 (百万円)	百分比 (%)	
I 売上高		825,880	100
II 売上原価		656,705	79.5
売上総利益		169,175	20.5
III 販売費及び一般管理費		128,455	15.6
営業利益		40,720	4.9
IV 営業外収益			
受取利息	540		
受取配当金	809		
持分法による投資利益	164		
雑収入	4,053	5,568	0.7
V 営業外費用			
支払利息	1,419		
営業外租税	1,004		
雑支出	2,980	5,405	0.6
経常利益		40,882	5.0
VI 特別利益			
固定資産売却益	224		
投資有価証券売却益	10		
退職給付過去勤務債務償却	572	807	0.1
VII 特別損失			
固定資産売却損	200		
固定資産除却損	582		
役員退職慰労引当金繰入額	378		
投資有価証券評価損	877		
ゴルフ会員権評価損	43	2,082	0.3
税金等調整前中間純利益		39,607	4.8
法人税、住民税及び事業税	13,945		
法人税等調整額	2,045	15,990	1.9
少数株主損失 (△)		△22	△0.0
中間純利益		23,639	2.9

(2) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

	住宅事業 (百万円)	商業建築 事業 (百万円)	リゾート・ スポーツ 施設事業 (百万円)	ホーム センター 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	469,815	255,304	32,637	30,557	37,566	825,880	—	825,880
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,548	4,510	14	872	31,864	39,810	(39,810)	—
計	472,363	259,815	32,651	31,430	69,430	865,691	(39,810)	825,880
営業費用	451,468	232,900	32,366	30,440	66,879	814,055	(28,895)	785,160
営業利益	20,894	26,914	284	989	2,551	51,635	(10,915)	40,720

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分の方法は、現に採用している売上集計区分をベースに住宅事業、商業建築事業、リゾート・スポーツ施設事業、ホームセンター事業及びその他事業にセグメンテーションしています。

2. 各事業区分に属する主要な内容

- ① 住宅事業 戸建住宅、集合住宅（寮、社宅、アパート等）、マンション等の建築請負、分譲及び賃貸、宅地の分譲、不動産の仲介斡旋、アパートの賃貸、管理、マンションの管理
- ② 商業建築事業 各種流通センター、店舗、事務所、工場等の建築請負及び賃貸、管理、事業用地の分譲
- ③ リゾート・スポーツ施設事業 リゾートホテル、ゴルフ場、スポーツ施設事業
- ④ ホームセンター事業 ホームセンター事業
- ⑤ その他事業 建築部材製造・販売事業、物流事業、都市型ホテル事業、その他

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、11,581百万円であり、その主なものは企業イメージ広告に要した費用及び当社の総務部門等管理部門に係る費用です。

[所在地別セグメント情報]

前中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、記載を省略しました。

[海外売上高]

前中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

海外売上高が、連結売上高の10%未満であるため記載を省略しました。